

あけぼの

第23号

平成29年7月16日発行

教委人権教育課

☎229-3253 FAX 229-3017

生きがい・つながり～高齢者の人権を考える～

人は高齢になれば、体の機能が徐々に衰えていくことは仕方のないこと。でも、そのために、楽しく暮らせなくなるのではないかと不安を感じている人も多いのではないのでしょうか。

全ての人々が人として尊ばれ、楽しく、安心して、幸せに暮らす権利は、社会全体で守っていくもの。子どもにも、女性にも、外国人にも、障がいのある人にも、どこに生まれても、いくつになっても、人としての権利は全ての人々が持っている大切に守られるべきもの。そしてそうした社会は、みんなで作るもの。同時に、私たち自身が勇気を出して、一歩踏み出すことが必要な場面もあるかもしれません。

今回の特集「生きがい・つながり～高齢者の人権を考える」は、市内のさまざまな地域で、仲間とともに居場所をつくり、居場所を広げながら、

生き生きと人生を謳歌している人生の先輩の皆さんの活動を紹介します。

「生きる」という言葉の意味を、さまざまな視点から考えてみたいと思います。



「サロンおいそ(老蘇)の集い」の皆さん(「シリーズ人・ひと」より)

人権コラム

高齢化社会を迎えて



内閣府の高齢社会白書によると、日本の65歳以上の高齢者人口は、平成27年には3,392万人となり、総人口に占める割合(高齢化率)は26.7%になっています。総人口が減少する中で高齢者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、平成47年には国民の3人に1人、平成72年には2.5人に1人が65歳以上の高齢者になると推計されています。

高齢化社会が進む中、高齢者の一人暮らしも増加しており、隣近所との関係も希薄になってきている現代においては、会話する相手がなく社会から孤立してしまう高齢者も多く見られます。

また、高齢化社会が進むと、当然ながら介護を必要とする人も増えることとなります。高齢者が高齢者を介護することも珍しくありません。

そして場合によっては、家族に介護のストレスが掛かり、その結果として高齢者の虐待につ



ながるという問題も現状では起こっています。ここでいう虐待とは暴力だけに限りません。暴言や無視なども虐待行為の一つです。

こうした問題を防ぐには、行政側の手立ても必要ですが、介護を行う人を孤立させず、周囲が気付くことも大切なことだと思います。

このように、一人暮らしの高齢者や、介護を必要とする高齢者が増加している中、地域住民同士で支え合っていくことが重要です。

住民同士がさりげなく気遣い、お互いの悩みも話すことができ、遠慮なく助け合いができる。そんな地域社会が望まれます。